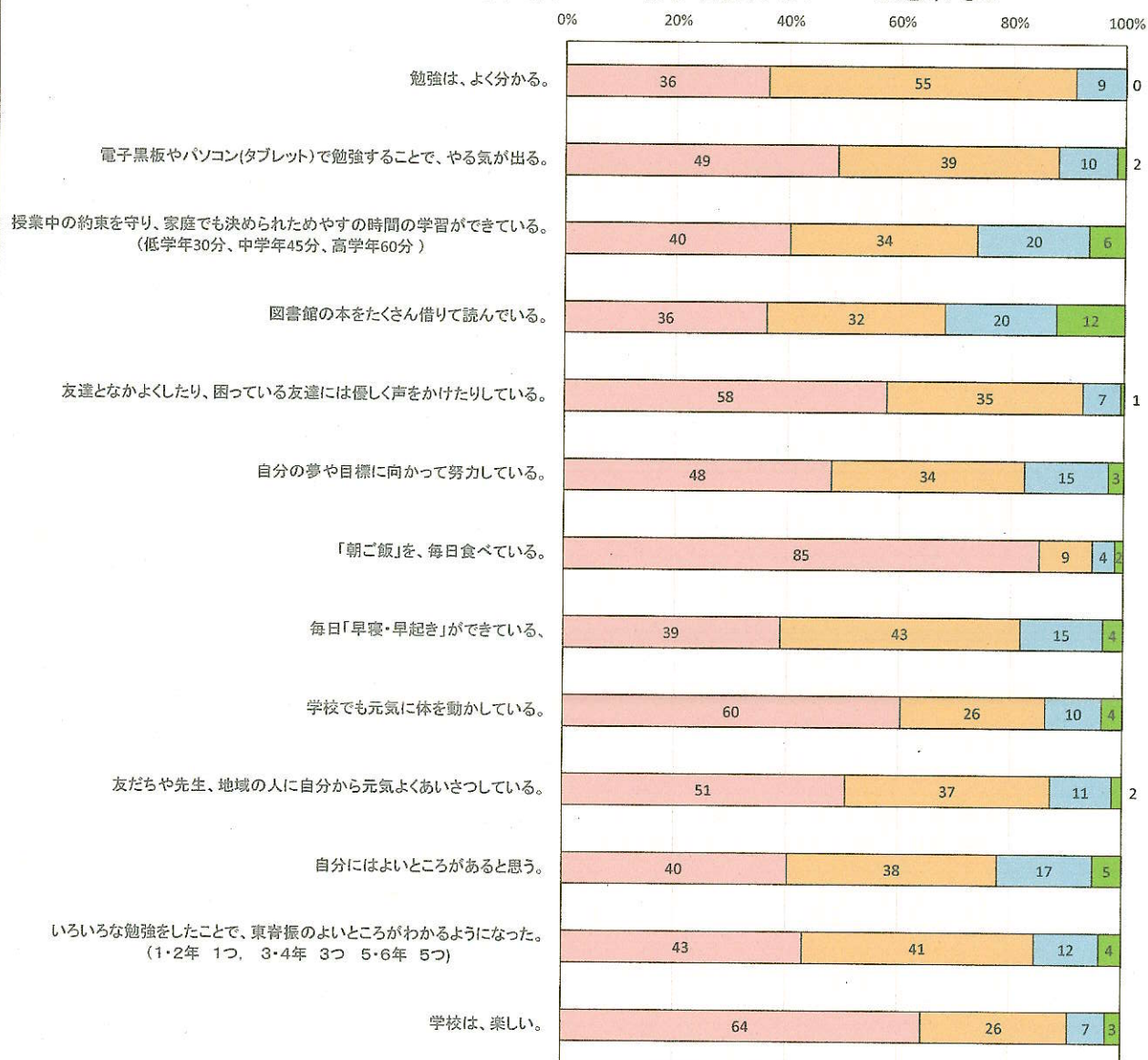


令和4年度 児童による学校評価(学校生活アンケート)集計結果

■ 4 そう思う ■ 3 だいたいそう思う ■ 2 あまり思わない ■ 1 思わない



3以上の割合が高かった項目

1	毎日朝ごはん	95%
2	友達となかよくしている	93%
3	勉強はよくわかる	91%
3	学校は楽しい	91%
5	ICT活用でやる気が出る	86%

2以下の割合が高かった項目

1	図書館の本の貸し出し	32%
2	めやすの時間の家庭学習	26%
3	自分によいところがある	22%
3	早寝・早起き	19%
5	自分の目標や夢	18%

<考察>

「はい」「まあまあ」を合わせると、ほとんどの項目で8割を超える結果が出ている。しかし、「思わない」と答えている児童が、ほぼ全ての項目で数%ずついることを重く受け止めなければならない。特に、「図書館の本をたくさん読んでいる」「めやすの家庭学習時間」「自分にはよいところがある」の項目については、学校としても、『一人も置きざりにしない』との思いで早急に対処すべきである。

具体的な取り組みとしては、読書指導での「読書の楽しさ・大切さ」を学級で共有すると共に「おすすめの本を紹介し合う」などが考えられる。また、家庭学習の時間の確保のために自学に取り組ませたり、自己肯定感を高めるような取り組みを行ったりしていく必要があると考える。